



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月8日

上場会社名 株式会社ファルテック 上場取引所 東
 コード番号 7215 URL https://www.faltec.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 文屋 仁志
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務執行役員 (氏名) 篠田 好洋 TEL 044-520-0290
 四半期報告書提出予定日 2022年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	49,333	2.0	297	—	544	△30.5	△286	—
2021年3月期第3四半期	48,385	△23.0	22	△98.0	783	△22.5	348	△77.7

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 747百万円(—%) 2021年3月期第3四半期 △206百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△30.51	—
2021年3月期第3四半期	37.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	66,359	21,388	28.9	2,047.69
2021年3月期	69,463	21,158	27.4	2,027.76

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 19,202百万円 2021年3月期 19,016百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	29.00	29.00
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				29.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,000	4.6	2,200	12.2	2,200	△22.4	1,000	△26.7	106.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 - 社（社名）、除外 - 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期3Q	9,378,600株	2021年3月期	9,378,600株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	728株	2021年3月期	687株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期3Q	9,377,878株	2021年3月期3Q	9,377,971株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により経済活動が低迷しておりますが、ワクチン接種が進んだこと等により先進国を中心に緩やかな回復基調にあります。然しながら各国でワクチン接種率に差があることや世界的な半導体の供給不足が長期化していることに加え、新型コロナウイルス感染症変異株の出現による感染再拡大があり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する自動車業界の概況も、新型コロナウイルス感染症による影響と半導体供給不足の長期化によりグローバルで生産調整等が相次ぎ、先行き不透明な状況となっております。

このような情勢の中、当第3四半期連結累計期間の売上高は、半導体供給不足長期化によるお客様の生産調整等の影響により49,333百万円（前年同期比2.0%増）と前年同期水準に留まりました。

営業利益は、お客様の生産調整に伴うロスや原材料市況高騰の影響をものづくり原価低減活動等により補い297百万円（前年同期は22百万円の営業利益）となりました。

経常利益は、営業利益増となったものの営業外収益が減少し544百万円（前年同期比30.5%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、286百万円（前年同期は348百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

（日本）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、半導体供給不足の長期化影響等により38,294百万円（前年同期比1.9%減）となりました。セグメント利益は、売上高減少に伴う利益減の影響を、ものづくり原価低減活動の推進や経費削減等により補い992百万円（前年同期比47.9%増）となりました。

（アジア）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、半導体供給不足影響等あったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症による影響からは回復し、7,496百万円（前年同期比16.7%増）となりました。セグメント利益は、売上高増に伴う利益増等により747百万円（前年同期比40.5%増）となりました。

（北米他）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、半導体不足の長期化影響等によりお客様の生産工場で長期操業停止があったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症による影響からは回復し、3,541百万円（前年同期比20.2%増）となりました。セグメント損失は、英国子会社の新型コロナウイルス感染症対策等に伴う生産ロス費用、原材料市況高騰及びEU離脱に伴う人件費高騰の影響等により1,439百万円（前年同期は1,186百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は66,359百万円となり前連結会計年度末比で3,104百万円の減少となりました。このうち、流動資産は35,502百万円となり前連結会計年度末比で3,452百万円の減少となりました。流動資産の主な減少は、第2四半期に続き当第3四半期においても売上高が低調に推移したことによる受取手形及び売掛金の減少3,328百万円等であります。また、固定資産は30,856百万円となり前連結会計年度末比で347百万円の増加となりました。固定資産の主な増加は、機械装置及び運搬具（純額）の増加414百万円等であります。

負債は44,970百万円となり前連結会計年度末比で3,334百万円の減少となりました。このうち、流動負債は29,035百万円となり前連結会計年度末比で2,494百万円の減少となりました。流動負債の主な減少は、お客様の生産調整影響を受けた生産の低調な推移に伴う仕入高減少による支払手形及び買掛金の減少1,764百万円、短期借入金の返済による減少446百万円等であります。また、固定負債は15,935百万円となり前連結会計年度末比で840百万円の減少となりました。固定負債の主な減少は、退職給付に係る負債の減少426百万円、長期借入金の返済による減少276百万円等であります。

純資産は21,388百万円となり前連結会計年度末比で230百万円の増加となりました。純資産の主な増加は、為替換算調整勘定の増加725百万円等であります。

当社グループが重要視している自己資本比率は、前連結会計年度末対比で1.5ポイント上昇し28.9%となりました。なお、第2四半期連結会計期間末対比では、当第3四半期連結会計期間の純損失計上により、1.0ポイントの低下となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2021年5月13日の「2021年3月期 決算短信」で公表致しました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,710	11,007
受取手形及び売掛金	17,409	14,081
商品及び製品	3,256	4,111
仕掛品	606	1,003
原材料及び貯蔵品	3,165	3,307
その他	1,808	1,997
貸倒引当金	△2	△6
流動資産合計	38,954	35,502
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,064	10,066
機械装置及び運搬具(純額)	6,476	6,890
工具、器具及び備品(純額)	1,096	1,090
土地	6,455	6,482
リース資産(純額)	1,368	1,250
建設仮勘定	2,097	2,146
有形固定資産合計	27,557	27,926
無形固定資産	966	985
投資その他の資産		
投資有価証券	360	316
繰延税金資産	1,328	1,328
その他	302	305
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	1,984	1,944
固定資産合計	30,508	30,856
資産合計	69,463	66,359

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,055	6,290
電子記録債務	4,048	4,456
短期借入金	7,614	7,167
1年内返済予定の長期借入金	4,607	4,717
リース債務	1,055	1,050
未払法人税等	493	176
賞与引当金	1,034	446
その他	4,620	4,729
流動負債合計	31,529	29,035
固定負債		
長期借入金	10,232	9,955
リース債務	518	369
退職給付に係る負債	4,584	4,158
再評価に係る繰延税金負債	1,007	1,007
その他	432	444
固定負債合計	16,775	15,935
負債合計	48,305	44,970
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,291	2,291
資本剰余金	609	609
利益剰余金	14,255	13,697
自己株式	△0	△0
株主資本合計	17,155	16,597
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	61
土地再評価差額金	2,040	2,040
為替換算調整勘定	483	1,208
退職給付に係る調整累計額	△734	△704
その他の包括利益累計額合計	1,860	2,605
非支配株主持分	2,141	2,185
純資産合計	21,158	21,388
負債純資産合計	69,463	66,359

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	48,385	49,333
売上原価	41,753	42,078
売上総利益	6,631	7,254
販売費及び一般管理費	6,609	6,957
営業利益	22	297
営業外収益		
受取利息	29	37
受取配当金	7	8
持分法による投資利益	16	—
助成金収入	637	246
その他	228	135
営業外収益合計	920	427
営業外費用		
支払利息	105	83
為替差損	34	42
持分法による投資損失	—	22
その他	18	31
営業外費用合計	158	180
経常利益	783	544
特別利益		
投資有価証券売却益	196	—
特別利益合計	196	—
特別損失		
固定資産除売却損	24	28
減損損失	—	3
工場休止損失	20	—
特別損失合計	45	31
税金等調整前四半期純利益	934	512
法人税等	469	628
四半期純利益又は四半期純損失(△)	464	△115
非支配株主に帰属する四半期純利益	115	170
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	348	△286

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	464	△115
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	△9
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	△902	843
退職給付に係る調整額	208	29
その他の包括利益合計	△670	863
四半期包括利益	△206	747
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△221	458
非支配株主に係る四半期包括利益	14	289

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、収益は顧客との契約において約束された対価の値引等に該当する取引については、従来は受取手形及び売掛金の消滅を認識しておりましたが、値引等に係る負債を流動負債のその他として認識する方法に変更いたしました。また、買戻し契約に該当する有償支給取引については、従来は支給品について棚卸資産の消滅を認識しておりましたが、棚卸資産を引き続き認識する方法に変更いたしました。さらに、代理人取引に該当する取引については、売上高を受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で認識する方法に変更いたしました。その他、顧客に支払う取引価格に対する報奨額については、販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、売上高から控除する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,132百万円、売上原価は1,106百万円、販売費及び一般管理費は26百万円それぞれ減少しましたが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響について)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の影響についての仮定に、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	北米他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	39,017	6,421	2,947	48,385	—	48,385
セグメント間の内部売上高 又は振替高	767	54	—	822	△822	—
計	39,784	6,475	2,947	49,207	△822	48,385
セグメント利益又は損失 (△)	670	531	△1,186	16	6	22

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	北米他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	38,294	7,496	3,541	49,333	—	49,333
セグメント間の内部売上高 又は振替高	672	36	—	709	△709	—
計	38,967	7,532	3,541	50,042	△709	49,333
セグメント利益又は損失 (△)	992	747	△1,439	300	△3	297

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. (会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「日本」の売上高は1,132百万円減少しております。なお、セグメント利益への影響はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「日本」セグメントにおいては、遊休資産となった機械装置について、帳簿価額全額を減損しました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては3百万円であります。